

令和6年度 学校関係者評価

- 1 実施日 令和7年1月20日(木) 9:30~10:30
- 2 参加者 長田美沙子 委員, 土橋守 委員, 長田てるみ 委員, 中山賢 委員,
大原千栄子 校長, 齊藤千代美 教頭, 濱田幸一朗 教務主任

3 話し合われた内容

〈評価項目に着目して〉

- ・「児童は目標をもって学校生活を送っているか」については昨年に比べ、保護者の評価が改善しており、取組の成果が出ている。今後も、県から出されたキャリアパスポートも活用しながら、児童が自らめあて(目標)を持てるように、目標やめあてを意識して教育を行っていく。また、学校だよりや学年だより等を活用し、保護者にも児童の頑張っている様子を今以上に発信していく。保護者にも個々の子供の様子や頑張りも伝えていくことで、さらに高まっていくだろう。
- ・タブレットの導入で一気を書くことが少なくなり、書く力の低下が懸念される。授業の振り返りなど色々な場面で書くことを入れるとともに、今まで時間をかけてきた漢字を書く、作文を書くなどの活動も大事にしていく。タブレットは授業を充実させるための一つの道具なので、従来からの授業の良さも大事にし、時には集中的に書くことを行っていくようにする。
- ・保護者が、これだけ「家でもあいさつしている」と回答しているのはうれしいことである。学校では、こちらからあいさつをしたり、促したりしている。また、「あじみそ」(※「あ」はあいさつ)をキャッチフレーズに、毎学期始業式・終業式でも話して、あいさつがよくなってきているが、まだ弱いと感じている。さらに、普段から「こんにちは。」朝玄関以外でも「おはようございます。」という声が出てくることも目指しつつ、大人になっても通用する挨拶を身に着けられるよう、家庭や地域と連携し、今後も継続して取り組んでいく。
- ・困ったときや悩みの相談は、上の学年になってくると、口に出せない、出たくないことがある。2学期末から導入した心の健康観察(Lゲート)を使って毎日の心の状況を調査したり、いじめアンケートをとって児童の困り感をキャッチしたり、色々な方法をとって心の声を捉えるようにしている。少し様子がおかしいと思ったらみんなで声をかけたり、話をしたりして、全教職員がきちんと観察することを継続していく。スクールカウンセラーも積極的に活用していく。

〈その他〉

- ・最後の保護者のコメントに「自分達を使う所は自分達できれいにする～」とあるが、11月中旬に中央市主催の環境美化運動があった。環境美化教育としてのゴミ拾いの活動に多くの親子参加していただいて、自治会としてとてもうれしく思っている。

〈総合的に〉

- ・大学の先生にも相談して項目を見直し、より評価しやすいものになった。内容から、学校の経営に教職員が一丸となって取り組んでいることがうかがえる。改善策もきちんと書かれており、来年度さらによりよくなるのではないかと期待できる。全体的に先生方がよく頑張っており、新たなことも取り入れながら、去年の評価よりとても高まっている。成果も出ており、今後このようにやっていっていただきたい。保護者のコメントも肯定的で、学校の成果が保護者にも認められていることがわかる。

〈まとめ〉

学校評価は、全般的に大変すばらしい評価をいただいた。児童の様子を見ても、昨年より落ち着き、成果が上がっている。課題については、また来年度改善策を実施していく。教職員が共通して話し合い、みんなで考えながら進めていき、今後も一丸となって学校教育に取り組んでいきたい。